

出張報告書

令和 元 年 10 月 2 日

会派名 公明クラブ
会長 永本 浩子 様

出張者氏名 永本 浩子 澤谷 淳子

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 元 年 9 月 30 日(月) ~ 令和 年 月 日() [1 日間]						
出張概要	①	月日	9月30日	市町村名	釧路市	会場	釧路市防災庁舎
		目的	視 察				
		テーマ	新庁舎建設に当たって、釧路市の防災庁舎に学ぶ (釧路市)				
	②	月日	9月30日	市町村名	阿寒町	会場	ストカムイ、カムイルミナ
		目的	視 察				
		テーマ	プロジェクションマッピング等を駆使した阿寒の観光戦略に学ぶ				
	③	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙(任意様式)で作成して下さい。

志誠会・公明クラブ合同視察報告

公明クラブ 永本 浩子、澤谷 淳子

1、 新庁舎建設に当たって、釧路市の防災庁舎に学ぶ

日 時：令和元年 9 月 30 日(月) 10:00~11:30

会 場：釧路市防災庁舎

<視察内容>

平成 23 年(2011 年)3 月 11 日に起きた東日本大震災で、釧路市も床上浸水 96 戸、床下浸水 232 戸、公共施設 5 棟、その他建物 328 棟の浸水被害があり、市役所本庁舎の 1 メートル手前まで水が来たことから、大規模災害の発生時においても市役所の行政機能を維持し、救助活動や復旧活動の体制を強化する目的で本庁舎の裏側に防災庁舎を建設した。

構 造：RC 造 地上 5 階建て

敷地面積：2,913.68 m² 建築面積：1,740.54 m² 延床面積：7,194.68 m²

工事金額：31 億 4 千万円(都市防災総合推進事業交付金、地域づくり総合交付金等で 21 億円、合併特例債 7 億円、一般財源は 3 億円で済んだ)

【防災対策の拠点としての 4 つの理念】

- ① 市民の安全を確保する施設とする
- ② 大災害時にも行政機能を維持する施設とする
- ③ 将来の機能変化に対応可能な施設とする
- ④ 省エネルギー・環境に配慮する施設とする

【防災庁舎の特徴】

- ① 1 階部分は津波が通り抜けるピロティ形式
- ② 2 階と 3 階の間に中間免振構造を採用
- ③ 4・5 階に災害対策本部、電算室、電気室、避難所、備蓄庫を集約
- ④ 災害時は一時避難施設として 1,700 人の受け入れが可能
- ⑤ 3 日分の水、食料、電気、汚水、雑排水に対応可能
- ⑥ 長期化した時のためにシャワー室、浴室を設置
- ⑦ エネルギー源は電気、ガス、石油の多重化でリスクを分散

- ⑧ 維持管理費等のライフサイクルコストの低減に配慮
- ⑨ LED 化やトイレの節水など二酸化炭素の低減に配慮
- ⑩ 子どもから高齢者、障がい者など誰にでも使いやすいユニバーサルデザイン

- * 動線は段差のないバリアフリー

- * 障がい者にも使いやすいエレベーター

- * 動作に負担が大きい部分に手すりの設置

- * 車いすシャワー室も整備

- * 各階に多機能トイレを設置しオストメイト洗浄機器を整備

- * 各階に給湯施設の整った授乳室を整備

- ⑪ 平時は市役所として市民の利便性に配慮

- * 窓口業務のワンストップサービス

- * 関連する窓口を機能的に配置

- * 一度座れば全ての手続きが出来る

- * 分かりやすさ、視認性を重視した窓口表示や案内表示

< 感想 >

災害の少ない網走と違って、釧路は 3.11 の時にあと 1 メートルの所まで水が来て、近くの公共施設は地下が浸水して電気系統が全てダメになってしまった、という苦い経験があったため、1 階は津波が来ることを想定して水の通り道にする、という大胆な発想に、まず感心した。網走の新庁舎もこの方法を採用すれば、たとえ海拔の低いところに建てたとしても津波や大雨の浸水被害を最低限に抑えられるのではないか、と思う。

更に「中間免振」という工法で大地震が来ても 3 階以上は守られ、電算室や電気室など大事なものは全て 3 階以上に集約してあるため、胆振東部地震で全道がブラックアウトになった時もエレベーターは稼働していたとのこと。階段を上るのが困難な高齢者や障がい者もエレベーターが使えれば避難してきた時も安心だ。

また、廊下においてある長椅子は災害時には担架に変わり、市民の待合スペースに置かれたテーブルの中には水が入ったペットボトルが入れてあり、避難所になった時も役に立ち、平時は水の重みでテーブルが安定している。天井にはカーテンをかけられるレールが設置してあり、災害時にはその一角にカーテンを取り付けると、プライバシーを守るスペースを作り出すことが出来る。など、様々な工夫がある。

エネルギー源も電気、ガス、石油と多重化して用意しており、ブラックアウトで電気だけに頼ってはいけない、と痛感したばかりなので、大変大事な点だと思う。

平時は各階が市役所として使われているのだが、窓口の表示がとても見やすく、分かりやすい。なんといっても一度座ったら、色々な窓口を回らなくても全ての手続きが出来る、というワンストップ窓口になっている、という点が素晴らしい。来庁した市民の皆さんにとって使い勝手の良いことが一番大切なことだと思う。

更に、様々な交付金を活用して、これだけの庁舎を一般財源 3 億円で建設出来た、というのは羨ましい限りだ。大変勉強になり有意義な視察だった。網走の新庁舎建設に視察で学んだ多くのことを生かしていきたい。

2、プロジェクションマッピング等を駆使した阿寒の観光戦略に学ぶ

✓ 日 時：令和元年 9 月 30 日(月) 14:30~19:00

会 場：①阿寒湖アイヌシアター「イコロ」 ②カムイルミナ

<視察内容>

最近注目を集めている阿寒湖の観光スポットの阿寒ユーカラ「ロストカムイ」と阿寒湖の森ナイトウオーク「カムイルミナ」を視察した。

①阿寒湖アイヌシアター「イコロ」で演じられている「ロストカムイ」は、2019年3月から上演されており、デジタルアート、サウンドデザイン、ダンスなどの各分野で注目を集めているクリエイターが阿寒湖に集結し、古式舞踊、現代舞踊、3DCG、7.1chサラウンドを組み合わせ、5台のプロジェクターで舞台を立体化して誕生した新演目。プロジェクションマッピングによって舞台後方に映し出される幻想的な阿寒の森と狩りをするカムイ(神)と言われるエゾオオカミの映像。その映像とアイヌの伝統的な古式舞踊をコラボさせ「アイヌとエゾオオカミの共生」をテーマにした舞台。

②2019年7月にスタートした「KAMUI LUMINA(カムイルミナ)」は、世界で注目を浴びているカナダのデジタルアート集団「MOMENT FACTORY」が製作する体験型ナイトウオークアクティビティで、全世界で10作目、国立公園では世界初。阿寒湖畔の森1.2kmの道をたどりながら、アイヌの神の世界を体験できる。この旅のガイドとなる「リズムスティック」と連動した全く新しいデジタル体験を体感しながら、森の中に映し出されるフクロウに迎えられ、いくつものプロジェクションを駆使して蘇るアイヌの物語の、自分もその一人となって物語を進めて行く、という全く新しい体験型観光。

<感 想>

「ロストカムイ」は、最新のデジタルアートなどでアイヌの伝統舞踊を新しく現代に蘇らせた感が強く、新鮮に映った。舞台の最後は観客も一緒に踊ることが出来、踊り手の方々と身近に接することもできる。また、舞台の上でアイヌの方との記念撮影もできる参加型の観光となっていて、SNSでアップされることも計算に入っているのだと思う。観客席と舞台が近いため、迫力を感じられるのも魅力だと思った。

「カムイルミナ」は、よくこんな凄いことを考え、そして作ったものだと感心させられた。まず、一人一人に持たされる「リズムスティック」が凄い！歩く時は杖になり、足元を照らすライトにもなり、音楽を奏でながら案内してくれる。ポイントに近づくとライトの色が変わり、夜の森にフクロウが現れる。森の守り神のフクロウのメッセージをカムイに届ける使者となったカケスが、歌のリズムをキープすることが苦手なため、フクロウはカケスのサポートを観光客に託し、観光客が「リズムスティック」で地面を打ち鳴らすことでフクロウの要請に応える。観光客一人一人がすでに物語の登場人物になって次のポイントに進んでいく、という設定が新鮮で面白い。森の中全体に施されたライティングの美しさや本物の川の流れにプロジェクションマッピングを施すことによって幻想的な世界を作り出し、まるで異次元の世界にいるような全く新しい体験型観光だった。これなら子どもからお年寄りまで誰もが楽しめる内容だと思う。また、売り上げの一部が自然環境保護活動、アイヌ文化振興に活かされる、というコンセプトも素晴らしい。